

## べにふうき緑茶を利用した 新たな機能性表示食品の開発

アレルギー疾患を持つ国民が3割を越え、生活の質の低下が問題となっている中、不快感の軽減を目的に、「べにふうき」緑茶のアレルギー性鼻炎症状軽減作用、作用メカニズム、機能性成分であるメチル化カテキンの茶葉特性をこれまでに明らかにし、産学官連携により食品・ヘルスケア商品の開発を企業と行ってきました。しかし、これまでは機能性を表示することが困難でしたが、2015年4月から消費者庁より新たな機能性表示制度が施行されたことから、この制度を利用した「べにふうき」緑茶の開発を行いました。

### ☆ 技術の概要

1日当たり 34 mg のメチル化カテキンを含む機能性表示食品「べにふうき」緑茶（ティーバッグ、容器詰め飲料）を開発しました。目および鼻の不快感の軽減に関する研究成果やマスト細胞におけるヒスタミン遊離抑制作用のメカニズムに関する研究成果を科学的根拠とする農研機構公開 ([http://www.naro.affrc.go.jp/project/f\\_foodpro/2016/063236.html](http://www.naro.affrc.go.jp/project/f_foodpro/2016/063236.html)) のシステムティックレビュー(1) を活用し、消費者庁に届出を行い、受理後の 2015 年 9 月から発売を開始しました（図 1）。このお茶は毎日飲むことによりハウスダストやほこりなどによる目や鼻の不快感が軽減されるという機能性を持っています。

届け出た機能性表示は以下の通りです。

① 「べにふうき」緑茶ティーバッグ：

本品には、メチル化カテキンが含まれます。メチル化カテキンは、ハウスダストやほこりなどによる目や鼻の不快感を軽減することが報告されています。

② めめはな茶（容器詰め飲料）：

本品には、メチル化カテキンが含まれるので、ほこりやハウスダストによる目や鼻の不快感を緩和します。



図1 機能性表示「べにふうき緑茶」製品  
左：ティーバッグ（届出番号 A67）  
右：容器詰め飲料（届出番号 A69）

### ☆活用面での留意点

- 「べにふうき」緑茶ティーバッグ(3 g)は、利用の際には、ティーバッグを入れたカップに熱湯を注ぎ、2分間以上上下に振って抽出した茶を3回飲用(9 g/日)すれば、メチル化カテキン 34 mg（1日摂取目安量）を摂取でき、めめはな茶は1日2本の飲用で、メチル化カテキン 34 mg を摂取できることを明らかにしています。
- 詳細については、農研機構 食品研究部門 食品健康機能研究領域(TEL: 029-838-8011)にお問い合わせください。  
(農研機構食品研究部門 山本(前田)万里)